

「教職者と信徒が祈り支え合う」エペソ6：19－24 堀田修一 20・12・13

I 先行的神の恵み。①イエスキリストの恵み（私達の罪の為のクリスマス、十字架、死への勝利の復活）、父なる神の大きな愛（弱さと欠点のある私達を心から受け入れ愛して下さる）、聖霊なる神の親しい交わり（励まし、慰め）。②一人ぼっちにされず、互いに祈り合う教会を与えておられる！

II 教職者の最大の使命＝「私たちは祈りとみことばの奉仕に専念します」使徒6：4。

1. 主を求める求道者の方々に、分かり易く、みことばを教え、毎週の礼拝において、信徒の皆さんが霊的に養われ、未信者の方々が、素晴らしい神の事を知って行かれる為に、祈りつつ祈られつつみことばを学び、味わい、自分自身が教えられ養われ、会衆の皆様の心に届く説教をする。

2. 愛する信徒と求道者の為に、日々祈る。「祈りのノート」「祈りの道しるべ」等を用いつつ。また、御聖霊に導かれる時、その都度。※私の場合は、毎朝、神と交わり（御言葉と祈り）、皆さんの為に祈る。夕食後は、妻と共に、皆さんの為に心を合わせ祈る。これは幸いな時です。祈りは、自分自身を神に近づかせ、祈りが神に届き、神は、その祈りにより一人一人を支えられる。パウロは兄弟姉妹の為に良く祈り支えた。エペソ人への手紙も祈りで始まり「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安がありますように」（1：2）、祈りで終わっている→「信仰に伴う、平安と愛が、父なる神と主イエス・キリストから、兄弟（姉妹）たちにありますように。朽ちることのない愛をもって私たちの主イエス・キリストを愛する、すべての人とともに、恵みがありますように」：23，24。祈りも恵みで始まり恵みで終わる。無理をして自分の力で頑張る律法主義ではなく、主の恵みに生きる私達は幸いです。

III 教職者は、愛する信徒や求道者の為に祈ると同時に、愛する信徒の方々に祈り支えられてはじめて、主の為に働きを続ける事ができる。試練や重い病の中にいる信徒、教職者の為に祈り合いましょう！

1. 私と妻の為に祈って支えておられるように、来春、就任される伝道師ご家族の為に心から祈り支えていただきたい。教職者が、信徒の為に祈り、信徒の方が教職者の為に祈る教会は、神の大きな祝福を受ける。悩みや困難、問題のない人はいない。信徒も教職者も弱さがあり、お互いに祈り支えられる事を必要としている。弱さや悪魔による霊的な戦いが皆ある。教会では、祈る側と祈ってもらう側が決まっていない。皆、お互い、祈って頂く必要がある。教職者も信徒も求道者も皆、悩み、弱さを持っている。弱さは、マイナスではない。弱さがあるから神を求める。弱さを自覚する時、神に素直に心から拠り頼む祈りが生まれる。「私の為に祈って下さい」という祈り合いが生まれる。そこに愛と全能の神は働かれる！謙遜がなければ、「私の為に祈って下さい」と言えない。

2. 主の為に、福音の為に獄中にいたパウロは、心からの祈りの要請をした。教職者は、信徒や求道者の為に心から祈るが、悪魔の誘惑、霊的な戦いが大きいので、信徒の方々の熱い祈りの支えを必要としている。悪魔は教職者を特に攻撃する。この2千年間、世界中の教職者が、悪魔の誘惑に負け、大きな罪を犯し、主の為に働きを退いている。悪魔が教職者を特に攻撃するのは、教職者が倒れると、教会へのダメージが大きいからである。悪魔はそのことを知っている。私と妻が今まで、支えられているのは、信徒の皆様が、愛を持って祈り支えて下さるからである。教職者夫人が弱り、働きを続けるべきか祈っておられる教職者もおられる。※「私の為に祈って下さい」と願う教職者は実は多くはない。信頼関係。

3. 教職者は大切な福音宣教の為に祈って下さいと依頼する必要がある。悪魔は、福音の前進を邪魔するから。「また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義（父なる神が、罪人の私達を愛して、ひとり子のイエス様を、私達の為に救い主としてクリスマスに、この世に遣わされた。

主イエスは、私達の罪＝神を信じない高慢、実際の殺人、盗み、不品行、不正とともに、心の中の憎しみ、恨み、ねたみ、うそ、ごまかし、悪口、陰口、心の姦淫等を負い、私達の身代わりに十字架で刑罰を受け死なれる為にクリスマスにこの世に来て下さった。この主イエスを自分の罪の為にクリスマスに生まれ、十字架で死に、三日目によみがえられた救い主、神として信じ心に迎えるなら、神はすべての罪を赦し、永遠の命を与え救って下さる。永遠に愛し支えて下さる)を大胆に知らせることができるよう、祈ってください」：19。「私はこの福音のために、鎖につながれていながらも使節の務めを果たしています。宣べ伝える際、語るべきことを(識別して)大胆に(臆病ではなく)語れるように、祈ってください」：20。私も、45年、多くの方々に、素晴らしいイエス様の救いを語って来たが、そのことが出来たのは、多くの方々に祈り支えられたおかげである。祈りの支えを感謝します！

4. 教職者には、悪魔による霊的な戦いと自分にも弱さがあるため、信徒の方々の祈りの支えを必要としている。パウロの正直な告白(この約2千年間、福音の働き人が、多くの迫害、試練を乗り越えて福音を伝え続けたので、私達のもとにも福音、主の救いが届いた事を感謝したい)＝「労苦したことはずっと多く、牢に入れられたこともずっと多く、むち打たれたことははるかに多く、死に直面したこともたびたびありました。…ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、一昼夜、海上を漂ったこともあります。何度も旅をし、川の難、盗賊の難、同胞から受ける難、異邦人から受ける難、町での難、荒野での難、海上の難、偽兄弟による難に会い、労し苦しみ、たびたび眠られずに夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さの中で裸でいたこともありました。ほかにもいろいろなことがあります、さらに、日々私に重荷となっている、すべての教会への心づかいがあります。だれかが弱くなっているときに、私は弱くならないでしょうか。だれかがつまづいていて、私は心が激しく痛まないでしょうか」Ⅱコリント11：23－33。教職者は、スーパーマンではない。弱さを持つ人間である。それぞれ性格や考え方の違う方々を、一致して教会が歩むように導く事は、至難の業であり、人の力では出来ない。神に拠り頼む必要がある。悪魔の誘惑も強く、大きな罪に陥り、病になり、牧会を退く方々もある。全能の神の助けが必要である。信徒の方々の祈りの支えを必要としている。私は、皆さんが祈り支えて下さる愛を心から感謝しています。それなくして今の自分は存在しません。

5. パウロは、悪魔の攻撃と自分の弱さと祈ってもらおうと支えられる事を自覚していたので、各教会に祈りの要請をした。「御霊の愛によってお願いします。私のために、私とともに力を尽くして、神に祈ってください」ローマ15：30。「私たちのためにも祈ってください」コロサイ4：3。「私たちのためにも祈ってください」Ⅰテサロニケ5：25。「私たちのために祈ってください」Ⅱテサロニケ3：1。

Ⅳ 祈る時、昔も今も本当に神が聞かれる励ましの御言葉。

1. 「彼らの叫びは神に届いた。…神が…ご覧になった。神は彼らを見こころに留められた」出2：23－25。「わたしは、…彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの痛みを確かに知っている」3：7。

2. 「民の叫びがわたしに届き、わたしが自分の民に目を留めたからだ」Ⅰサム9：16。「神はこの国の祈りに心を動かされた」Ⅱサム21：14。「主が…祈りに心を動かされた」24：25。3. 「あなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたところで見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます」マタイ6：6。「あなたがたのうち二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます」18：19。「いつでも祈るべきで、失望してはいけない…神は、昼も夜も神に叫び求めている…者たちのためにさばきを行わないで、いつまでも放っておかれることがあるでしょうか」18：7。4. 「互いのために祈りなさい。正しい人(完全な人ではなく、自分の罪を告白し神との関係を回復する人)の祈りは、働くとき大きな力があります」ヤコブ5：16。